



ふく た けい いち
福田 慶一

しみん
市民クラブ

過疎化や人口減少の中での定住促進施策は

問 人口減少は日本社会が不可避の構造的な問題である。高齢社会白書では、2年後、前期高齢者と後期高齢者の割合が逆転し、空き家、耕作放棄地、所有者不明地の増加が見込まれる。

また、これから生産年齢人口の減少が始まり、今までの社会経済構造では労働力不足となる。

津市においても、高齢化と人口減少に向かっている中、定住促進の考え方は。

答 定住促進のポイントは雇用と教育であると考えます。

雇用に関しては、東京にある三重県の移住相談窓口において、津市の職務経験者採用試験の案内をするなど、移住先を決めてから仕事を決めるのではなく、仕事が決まってから移住するという形を作り出している。

さらに、雇用の創出拡大を図るために、ビジネスサポートセンターにおける企業誘致や創業支援に力を入れている。

また、教育に関しては、認定こども園の開園や放課後児童クラブの整備、未就学児の子ども医療費の窓口無料化などを進め、子育てしやすい環境の整備や子どもたちのための施策の充実を図っていく。

●その他の質疑・質問●

- 総務省からの「予算編成に当たり留意すべき事項」をどのように平成30年度当初予算に反映したか
- 地区防災計画の現状と今後について
- 中小企業や小規模事業者の事業承継について
- 市内中小企業の人材確保について など



▲国が示す「予算編成上の留意事項」を踏まえた当初予算に



い どう やす お
伊藤 康雄

しん わ かい
津和会

あのを温泉の存続について

問 あのを温泉の存続を求める約1,450人分の署名が市長へ届けられたが、現在、年間約950万円の赤字を出しており、さらに今後、公共下水道の使用料負担がかかってくる状況の中、あのを温泉の経営をどのように進めていくのか。

答 関係機関へのチラシの配布などの広報や施設の美化修繕など、経営改善と集客に努めてきた。

しかし、赤字経営が続いており、今後、下水道の接続費用や年間約650万円の下水道使用料も必要となってくることから、関係所管で協議を行い、民間事業者からの提案募集を実施するなど、今後の経営については多面的に検討していく。

また、維持管理費の削減や利用者の増加のために、あらゆる手段を講じていく。

市自らが源泉を持っているという強みを生かして、効率的な経営に努めていきたい。

●その他の質疑・質問●

- 香良洲高台防災公園の整備について
- 小学校の普通教室へのエアコン設置について
- 防犯カメラ設置パイロット事業について
- 市道大里野田町第11号線について
- 増加を続ける救急要請への適正利用について



▲地域住民から存続が望まれるあのを温泉

